



波多交流センター内で運営するマーケット

雲南市波多地区は、昭和57年に「波多コミュニティ協議会」を設立し、平成20年度から県の支援を受けて「波多いろいろどりプロジェクト」を結成。地域住民全員に聞き取りを行っ

て作成した地域ビジョンを元に、取り組みを進めています。平成26年に地区唯一の商店が閉店したため、買い物支援策としてマーケットの運営を始めました。生鮮食品や日用品など650品目に及ぶ商品の管理・調達は全日食チェーンへの加盟で効率化。活動拠点の波多交流センター(旧波多小学校)に店を開き、職員が店員を兼務しています。波多コミュニティ協議会の山中満寿夫会長は「住民の利便性を考えて毎日営業しようと、固定経費や人件費が抑制できる方法を考えた」と話します。車を持たない高齢者のために、自宅からマーケットまで無料送迎車も運行しています。防災体制の整備にも力を注ぎ、避難に支援を必要とする人ごとにサポートする人を割り振って、年一回の避

地域主体で マーケット運営

●波多コミュニティ協議会(雲南市)

地区データ

該当エリア/雲南市 掛合町波多
人口/337人
高齢化率/49.6%
(平成28年4月時点)



指定管理を受けて運営する波多温泉「満寿の湯」

難訓練を実施。実践的な活動は、住民相互の一体感にもつながりました。また、近隣には温泉施設やキャンプ場があり、その指定管理者となることで産業振興や雇用創出を図っています。



地域内交通「たすけ愛号」

波多地区の取り組み

「波多いろいろどりプロジェクト」結成(平成20年)
「中山間地域コミュニティ再生重点プロジェクト事業」(県事業:平成20~22年度)
全住民を対象にヒアリングを実施

防災体制の整備

防災マップや要支援者ファイルの作成
避難訓練の実施など

買い物・交通対策

波多マーケット運営
地域内交通「たすけ愛号」の運行

地域産業振興

温泉施設、キャンプ場の指定管理事業

自然を生かした交流促進

市内児童を対象とした自然体験合宿

「みんなで」「前向きに」「無理をせず」「楽しんで」をキーワードに、思いやりを持って助け合い、安心して暮らしていける地域づくりを目指す



弁当の配食サービス

大田市北三瓶地区は、かつての国境にまたがった3地区の一体化を図り、地域課題に取り組みようと、平成24年に「北三瓶よろず会」を結成しました。高齢者への聞き取り調査で課題を洗い出し、週1回の配食サービスを始めました。市内業者で北三瓶まちづくりセンターまで弁当を配送してもらい、住民ボランティアが各戸へ届けています。買い物物の不便さや栄養管理への不安に対する生活支援だけでなく、高齢世帯の孤立予防につなげています。また自主防災のための防災マップの作成や救命救急キットの全戸配付、県の支援を受けて空き家対策や産業振興にも取り組んでいます。住民の一体感を深めるため開設したホームページにかかる費用は、カレンダーを作成・販売して自己資金をつくるなど、工夫をしました。地域づくりは「北三瓶の夢を語る会」で住民が語り合った内容が土台になっています。北三瓶よろず会の

配食サービスで 高齢者の見守り

●北三瓶よろず会(大田市)

地区データ

該当エリア/大田市三瓶町多根・野城、山口町
人口/542人
高齢化率/44.5%
(平成28年4月時点)



全戸配付した救命救急キット

「北三瓶の夢を語る会」で住民から挙がった希望

資金づくりのために作成したカレンダー



北三瓶地区の取り組み

「北三瓶よろず会」設立(平成24年)
「集落ビジョン実践塾」(県事業:平成25年度)
「北三瓶の夢を語る会」を開催

農林畜産業の振興

北三瓶地域の農村景観を守るための話し合いの場づくり

生活環境の改善

高齢者向け配食サービス・見守り
共働き家庭の子育て支援

定住交流の促進

空き家の有効活用

「北三瓶は一つ」をスローガンに、一人一人が地域の現在と未来にかかわり、「みんなが元気に楽しく暮らし続けられる」地域づくりを目指す

亀谷恵隆副会長は「不安を語ってもきりがない。ああしたい、こうしたいという将来への希望が活動の推進力」と話しています。

